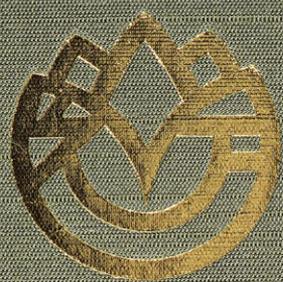


久万町誌

増補改訂版

久万町誌

増補改訂版





久万町誌

増補改訂版

町長 河野 修 書

久万町誌(増補改訂版)正誤表

ページ	上・下	行	誤	正	ページ	上・下	行	誤	正
三	上	一四	久万・畑野川 木林需要	久万・畑野川 木材需要	六七	下	二〇	橋梁の改復、修 久生村	橋梁の改復、修 久生村
六	上	九	木林需要	木材需要	七一	下	表	多額の徴収	多額の徴収
一一	上	七	侵食	浸食	七二	上	四	露峯村	露峰村
一七	上	一三	松山地方を比較検討	松山地方と比較検討	九〇	上	一八	手紙がのこっている。	手紙がのこっている。
二〇	下	二	降水量は	降水量の	九五	上	六	紙一揆とは理由がちがって	紙一揆とは理由がちがって
二二	下	一六	温度が一〇〇%	湿度が一〇〇%	九七	下	二二	山内才十は	山内才十は
二五	上	四	アブラチヤン	アブラチヤン	一〇〇	下	四	一夜は明け初めるころ	一夜が明け初めるころ
二六	下	一三	紫色の実を結ぶ、ヤブム	紫色の実を結ぶ、ヤブム	一〇一	上	一六	会所結万右衛門	会所詰万右衛門
二七	下	二〇	ヤブハギ、細長いコウヤ	ヤブハギ、細長いコウヤ	一〇四	上	三	二六五年、封建政治	二六五年、封建政治
二八	上	一二	ボウキ	ボウキ	一〇五	上	一九	藩主勝善公は	藩主勝善公より
三二	上	八	群生が目につく、落合へ	群生が目につく、落合へ	一〇七	下	六	起元	起源
四〇			下ると	下ると	一〇八	上	二三	久万山二四か村共有民積	久万山二四か村共有民積
			ベニモニカラスシジミ	ベニモンカラスシジミ	一〇九	上	八	立米金	積米金
			土林峠	上林峠	一一一	上	二二	上浮穴教育義会	上浮穴郡教育義会
			室作	宝作	一一一	下	二	具体案を作製	具体案を作成
			竹野敷	竹屋敷	一一五	下	八	愛媛県、多度津	愛媛県、多度津
			岩田	岩川	一一五	下	二	橋梁幅	橋梁幅
			山良野	由良野	一一七	下	八	作成	作成
			宮城	宮成	一一八	下	二	作成	作成
			二名横	徳好	一一九	上	三	四間幅	四間幅
五九			西河村	面河村	一二〇	下	一	困難	困惑
六六	上	一五	久万山手鏡	久万山手鑑					

ページ	上・下	行	誤	正	ページ	上・下	行	誤	正
一三二	下	四	死斗・ 一月三ごろ	死闘・ 一月三日ごろ	一八〇	下	二〇	父・二峰村に	露峰に
〃	〃	一四	〃	〃	二四九	上	左側写真	高殿神社の写真が反対	高殿神社の写真が反対
一二三	上	一六	法念寺	法然寺	二六五	上	表	明治村	明神村
〃	〃	二二	蔽たる	最たる	四五九	上	四	明神村	明神村
一二四	上	六	町村長、松山連隊からの 弔辞等が、	町村長が出席し、松山連 隊からの弔辞等も、	四六二	目次 三段目	二二	明神村	明神村
一二五	上	一一	久万町からも、	久万町からの	〃	〃	二五	法年寺	法然寺
一二八	上	一七	松の根の掘り出し	松の根の掘り出し	五〇六	下	二六	法年寺	法然寺
〃	〃	一八	堀り出し	堀り出し	五二三	下	表	(明神町)	(明神村)
〃	下	一七	硫黄島・沖繩と	硫黄島と	六二九	上	一九	高附貞一郎	高岡貞一郎
一二九	下	六	配給食料	配給食糧	六六三	上	写真	明神小学校 本館 明神	明神小学校
一三一	下	四	槇の谷	槇谷	〃	〃	写真	幼稚園 園舎	てあし
一三三	上	二	昭和五年一〇年三二日	昭和五年一〇月三二日	六七六	中	写真	第五代秋本半次	第五代秋本半次郎
〃	〃	五	体裁を整備できた。	体裁を整備した。	九三九	下	写真	一四・五四・享徳三年 井	一五・三〇・享禄三年 栄
一三四	下	キヤプション 五	国道33号線整備促進期成	国道379・380号線改良促進	九七七	下	キヤプション 年表一五	部栄範、大宝寺供養のた	範が供養のため宝篋印塔
一三九	上	二〇	朝日ヶ丘	旭ヶ丘	〃	〃	〃	め宝篋印塔を建てる。	を定泉坊に建てる。
一四二	下	二	宿主	家主	一〇二五	上	四	〃日野義彦(久万町教育	〃日野嘉彦(久万町教育
一四三	上	八	徴集	徴収	〃	〃	〃	長)	長)
〃	下	一三	作製	作成	〃	〃	〃	〃	〃
一五八	上	四	終わったのである。	終るのである。	〃	〃	〃	〃	〃
一七七	下	二	久万町大字二名	久万町大字露峰	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	写真	久万町大字二名	写真は「天狗石」の誤り	〃	〃	〃	〃	〃



町章



久万町花「ささゆり」



久万町木「杉」

町民憲章

1. 郷土を愛し、住みよいまちをつくり
ます。
1. 生産にはげみ、節約につとめて豊かな
なまちをつくります。
1. 健康の増進をはかり、活気あふれる
まちをつくります。
1. 若い力を育て、伸びゆくまちをつ
くります。
1. きまわりを守り、明るいまちをつ
くります。

久万町歌

二峰えたつ石籠山の山脈に
雲は湧き峰うごまゆけは
三坂の大観 瀬の海ひらけ
森林のみどり 山峡に深く
山の麓山にみちみち 心は清し
明らか繁け 久万の町

三つらめける 予土横断の国道に
霧をまり霧晴れゆけは
岩屋の青岩 紅葉を映え
仰西の偉業 稲穂波うち
郷みのり 雨はゆたかに 希望は高し
壁びて 栄え 久万の町



久万町市街地

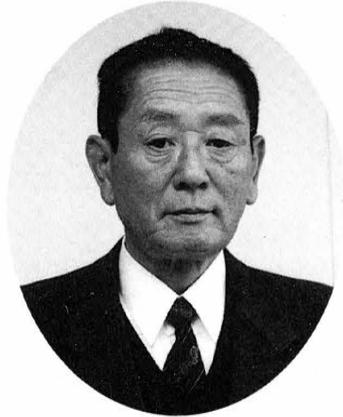




町長 河野 修



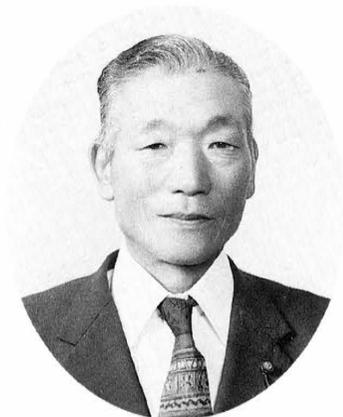
教育長 日野 嘉彦



収入役 日野 勉



助役 渡部鬼子雄



副議長 高野 淳雄



議長 佐伯 正俊



明神小学校の桜



リンゴの花



紅葉

久万の自然

雪



つらら



木の文化



木造の美術館



美術館玄関



木造校舎 (畑野川小学校)



美術品展示場



木造校舎建築風景 (畑野川小学校)



三階建ての旅館



辻 堂



土 蔵

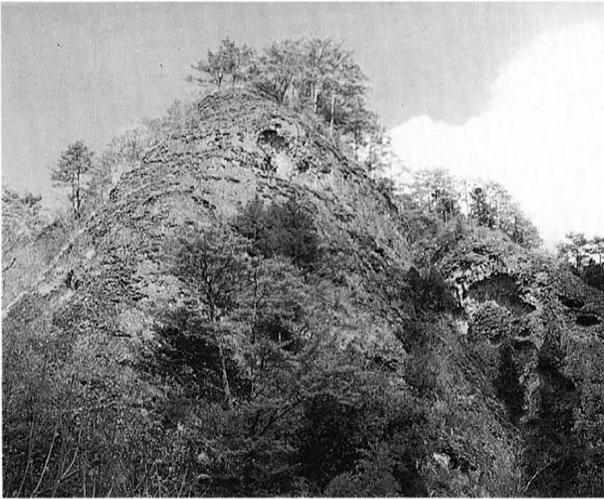


民家と納屋



カヤブキの民家

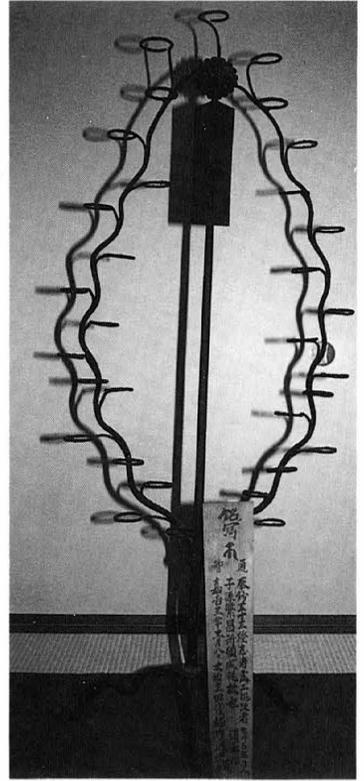
文化財



古岩屋



菅生山



菅生山大宝寺の三十三燈台



八幡神社の拝殿



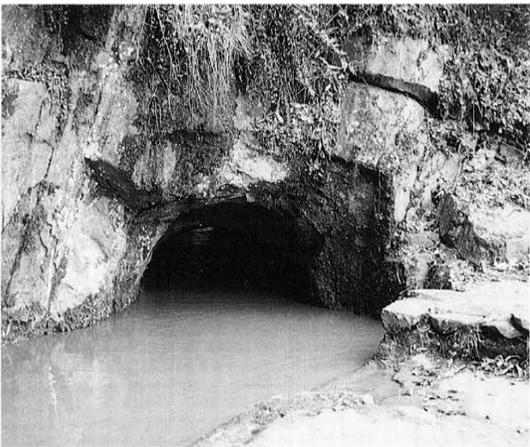
三島神社の拝殿



仰西渠(明渠)



こうや榎



仰西渠(暗渠)



住吉神社かやの樹叢

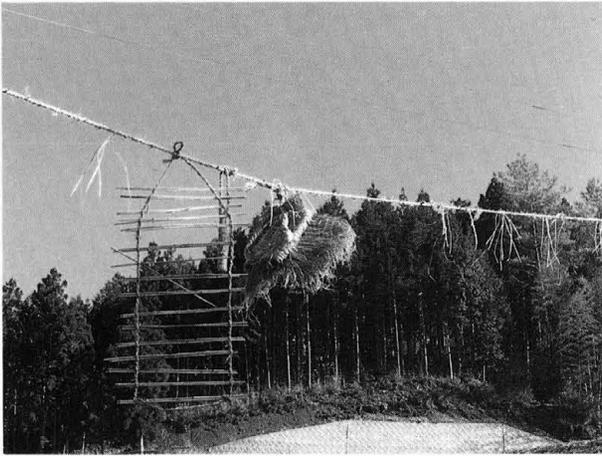


高殿神社の鰐口



伊予だけ自生地

伝統行事



鬼のコンゴウ



納涼まつり (久万山音頭)



五神太鼓



納涼まつり (御用木)



イノコ

農 業



バラグアイ国集団移住者壮行会（9家族）昭和35年5月



関西随一といわれた野尻の牛市



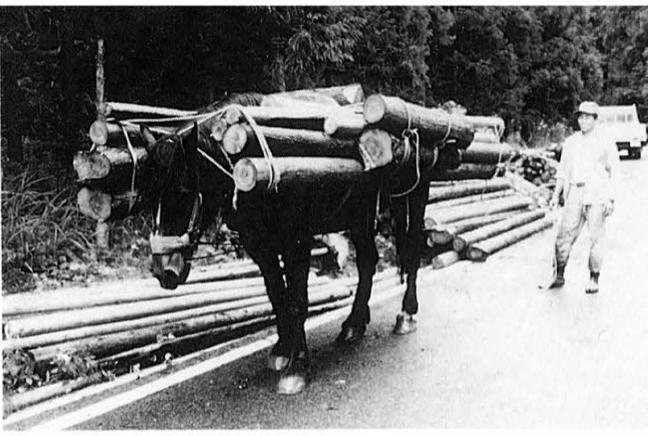
定木を使った田植え



とうもろこしのいなき



俵 装



材木を運ぶ馬

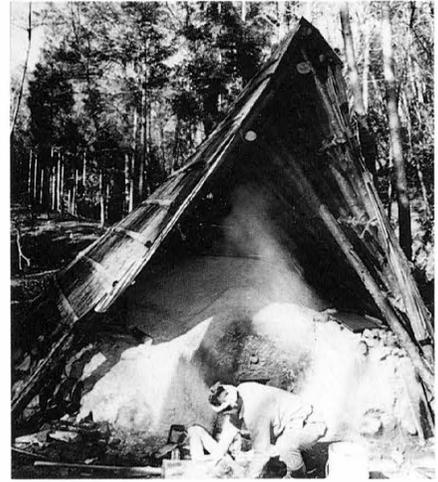
林業



原木市場の競売



磨き丸太



炭焼き



枝打ち体験をする緑の少年隊



雪害をうけた林

商 工 業

久万高原特産品まつり



雪をいかした
村おこし事業
(商工会)



砕石場



縫製工場



七夕の笹の商店街



商店街レンタサイクル

文化活動



明治青年大学講座



同和教育講座



壮年大学講座



読書グループの活動



婦人大学講座

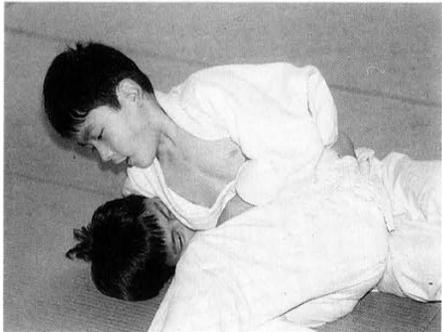


俳句大会

体力づくり



ちびっこずもう



どうだ



クロケター



オメーン



初心者コース

地下足袋バレー

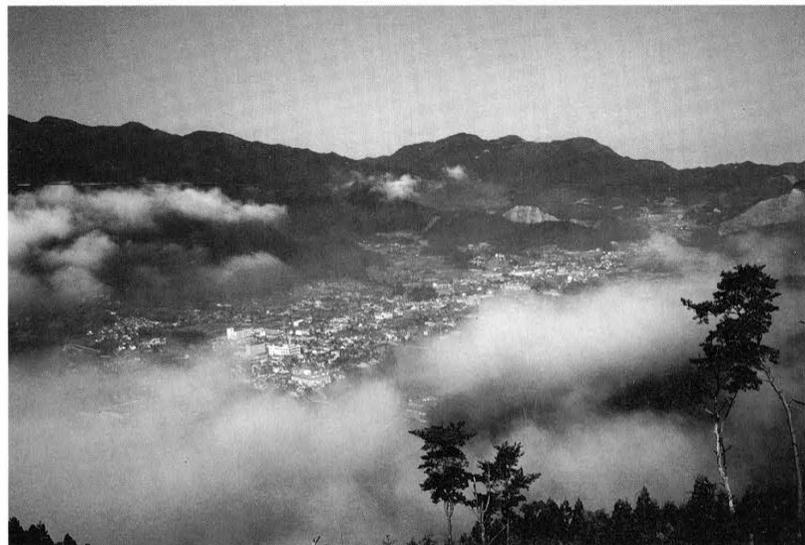




初夏の笛ヶ滝公園



久万町庁舎



久万高原の朝霧

発刊のことば

久万町長 河野 修

新町が発足して三十周年の良き日を迎えた。この三十年の歳月は激しい変化と飛躍の時代であった。

先輩の血のにじむような努力によって培われた町づくりの基盤の上に、町民が一丸となり、幾多の困難を克服し、今日みる久万町を築きあげ、県下有数の町として堅実な歩みをつづけている。

このたび、三十周年記念事業として、前に出版された町誌に其の後の町の歩みを加えるなど改訂版として、先輩の足跡を尋ね顕彰するとともに二十一世紀をめざし飛躍する誓を新たにするものである。

歳月の流れは早いもので、生きることのみを考えた生活の時代から、生きることとどう感じてゆくかという感性の時代へと大きく変化した。

感性の時代・文化の時代にふさわしく、本格的な文化ホール・木造の美術館等文化施設の充実は、生活にやすらぎと潤を与えている。愛媛県林業試験場の誘致決定は久万林業史に輝かしい一頁を加え、林業と山村の振興に大きな原動力となるものであろう。

自から考え自から実践するふるさと創生事業は、真の地方の到来と喜びたい。

今日の成熟化時代は見えざる価値の追求の時代である。時間的・空間的・肉体的・精神的な面での充実であり、人間が人間らしく生活してゆく幸福の根源である。その生活の場が農山村において求め得られるものと信じている。

懸案の真弓トンネルが完成し、三坂トンネル着工への夢も広がり、都市と農村交流を図る天体観測館・スポーツ合宿村の建設、特別養護老人ホームの建設など明るい展望が開けている。

三十周年を機に、今一度、静かに郷土の歴史をふりかえり、先人の努力に心から感謝し、一層の飛躍を決意する次第である。

本誌が更に新しい創造への出発点となり、新しく変り行く時代に対処して、よりよい歴史が町民の手によって書き加えられることを心から願っている。

町誌改訂にあたり、多くの方々の格別のお力添えで、こんなに立派な町誌になりましたことに対して、心から感謝するとともに、深く御苦労に対してお礼を申しあげたい。

この町誌が「自然と共生する高原文化のまち」づくりに指針を与えてくれることを信じ、久万町の一層の発展を祈念して発刊のことばとする。

発刊にあたって

久万町議会議長 佐伯正俊

新久万町発足三十周年を迎えることになりました。

光陰矢の如しと申しますが、いつの間にか三十年経過したとの感じがいたします。併しその間の久万町の発展は目を見はるようには伸展しておりません。

前日野町長、現河野町長の卓越したリーダーシップのもと、町民の皆様と共に、住みよい町、文化の香り高い町、働きがいのある町づくりを目指して頑張ってきました。その成果が、豊かな町の実現となって表れております。

振り返ってみますと、十周年に当る昭和四十三年十一月には、久万町誌が刊行されました。郷土の歴史と、新生久万町の足跡が記されております。又二十周年誌が昭和五十三年十月に出されました。三十年の節目には、写真で見る三十年が刊行されております。この度これらを補完する意味での久万町誌増補改訂版が刊行されることになりました。まことに時宜を得た企画だと思えます。

人口こそ、合併当時から比べると約半数になっておりますが、これも我が国の高度経済成長のもたらした歪みであり、私は長い目でみれば必ずある程度の復元はあるものと信じております。

財政規模は昭和三十四年度普通会計で九一二三万円でありましたが、昭和六十三年年度では予算現額三九億三〇七五万円であり、勿論この間の物価指数の違いなど計算にいれても飛躍的な成長を遂げております。

この間、積極的な財政運用による事業展開により、町内の社会資本の充実は目を見はるものがありますし、産業の振興、福祉の向上は言うに及ばず、交通ネットワーク整備、人づくりのための教育環境の整備等、豊かな町づくりの成果が表れております。これもひと

えに町民の皆様はじめ、各種機関、団体の御協力の賜と、厚く御礼を申し上げます。

三十周年を迎えるに当り、過去の足跡を振り返り、又、将来の発展を期して新しい展望をひらく決意を深くするものであります。

この記念すべき年を区切りとして、更なる発展をするよう町長を中心として、皆様と共に前進することをお約束して、ご挨拶と致します。